

授業改革推進リーダー・推進員からの情報提供 ～県外先進校における研究協議の持ち方～

参加者にとってより有意義な研究協議の在り方について

授業公開を実施することは、授業者だけでなく学校全体で授業改善を進めるに当たってとても重要な取組の一つです。研究協議を深めることで、児童生徒の学力向上に結び付く指導の工夫等ができていたか、共通の視点を基に、協議を深めることが大切です。そこで、参加者にとって意義をより感じることができる研究協議の持ち方の事例について、授業改革推進倉敷中学校チームが県外視察で得た知見を紹介します。各校での取組の参考としてください。

以前、県外の指導主事の方に「岡山県の研究協議は実に穏やかですね。良くも悪くも・・・。」と言われたことがあります。（良くも）の部分は参加者みなさんが授業を温かく見つめ、授業者を労い、賛辞の言葉が中心で研究協議が進んでいくこと。（悪くも）の部分は、授業者がせっかく工夫しているのに、何でも感想を言い合うので議論がぶれてしまい、課題点はあまり語られないまま終わることです。先の言葉は「・・・授業者に気を遣い、課題点を表に出さないのは優しさとは違うんですけどね。」と続けました。

研究協議のあり方として、いろいろ方法はあるのですが、高知県に視察に行ったときのルールがシンプルでわかりやすかったので、以下に紹介します。

高知県で体験してきた研究協議のルール

- ① 授業者は予め、**研究協議の柱**（「ここについて語ってね。」「この方法について意見が聞きたいです。」）を挙げておき、付箋付の記録用紙を準備しておく。※裏面参照①
- ② 研究協議は最大6人の**グループ**で行う。（10人以上が円になって一人ずつ感想言って終わるのはもったいないから。）
- ③ グループ内の発言は、**若手の教員から話す**。（沈黙の果てに、気を利かせたベテランが口火を切って話すと、違う角度の話を普通の若手はもう語れないですよ。）
- ④ 労いの言葉などは言わず、協議の柱についてのみ、A3の台紙に付箋を貼りながら参加者が感じた**疑問点や改善案のみを発表する。そして、議論は短くする**。

・・・と、ここまでだと、なんだか関係がギクシャクしそうな感じですが、ちゃんと労いの言葉や、その他の気づきなどは紙に書いて授業者に渡すようにしていました。

- ⑤ 研究協議のまとめは、担当者が改めてまとめることはせず、参加者の付箋を貼ったA3台紙を縮小コピーしてA4サイズにし、**そのまま綴じる**。（担当の負担は増やさない。当然参加者は、そのまま記録されることを前提にはっきり記入する。） ※裏面参照②

研究協議が変われば、研究会そのものも変わっていくはずですが、参加者全員で変えていきましょう。

